

**中部経済同友会の
未来を考える委員会**

×



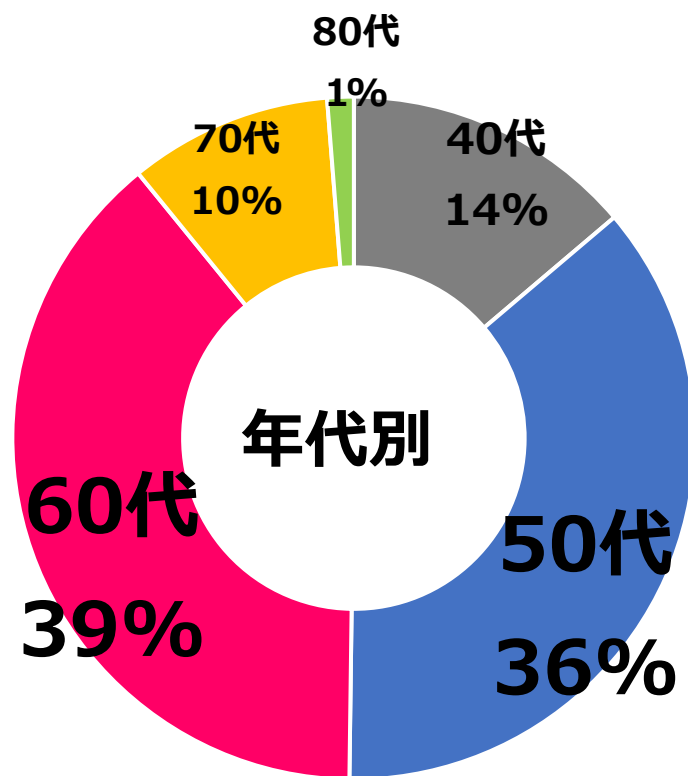
会員アンケート

「中部経済同友会の未来に向けて」

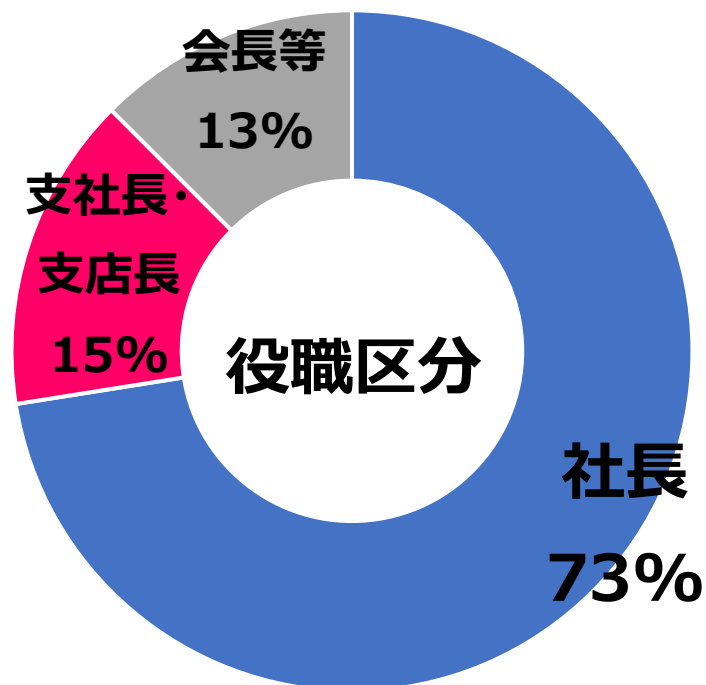
実施期間：2020年7月29日～8月21日

回答者属性 1

回答者数 240名
(回答率23.5%)

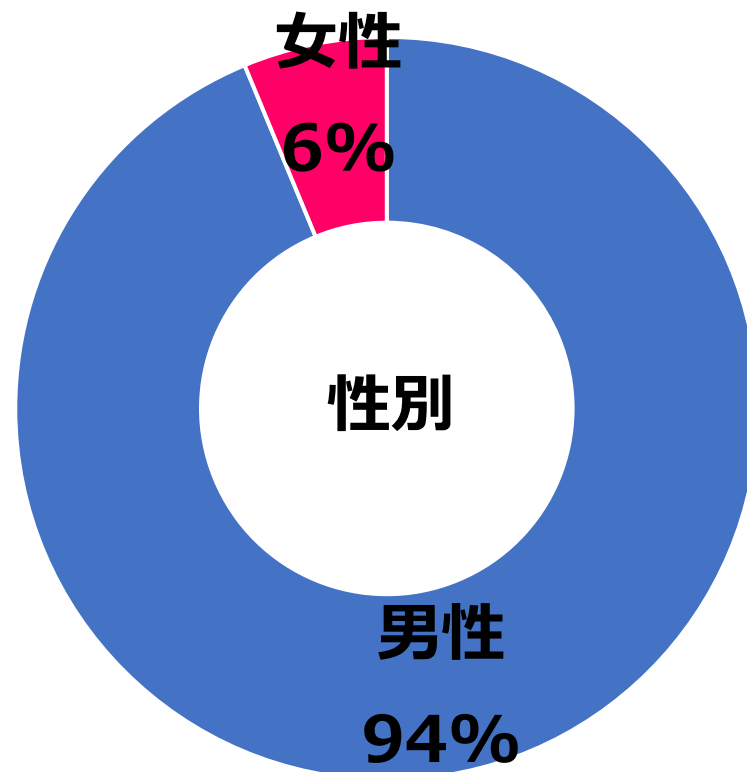
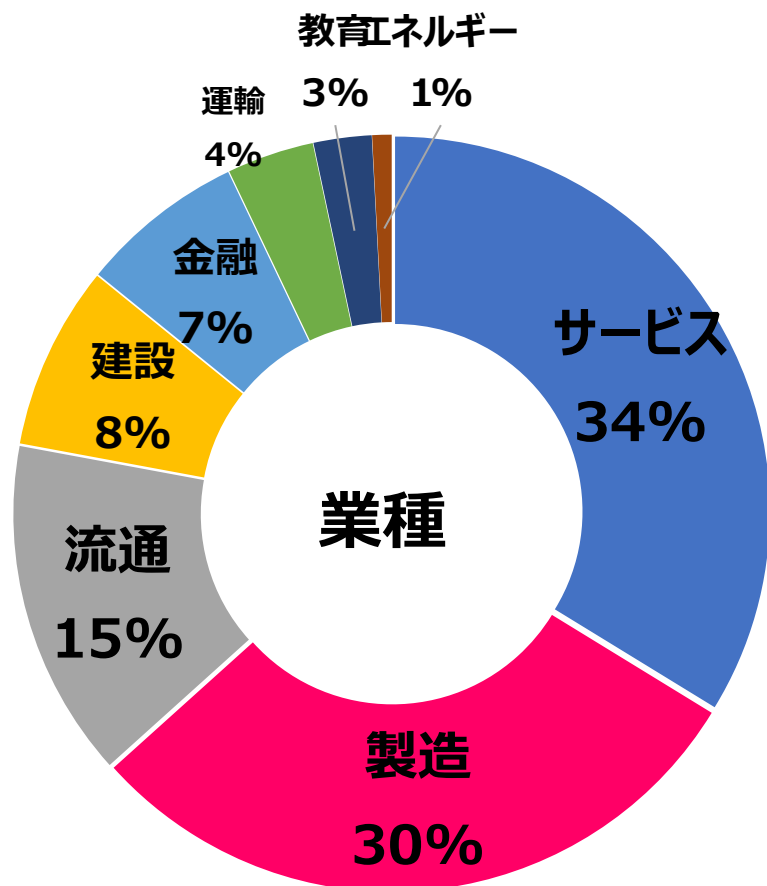


回答者平均年齢 54才
(本会全体平均年齢 61才)

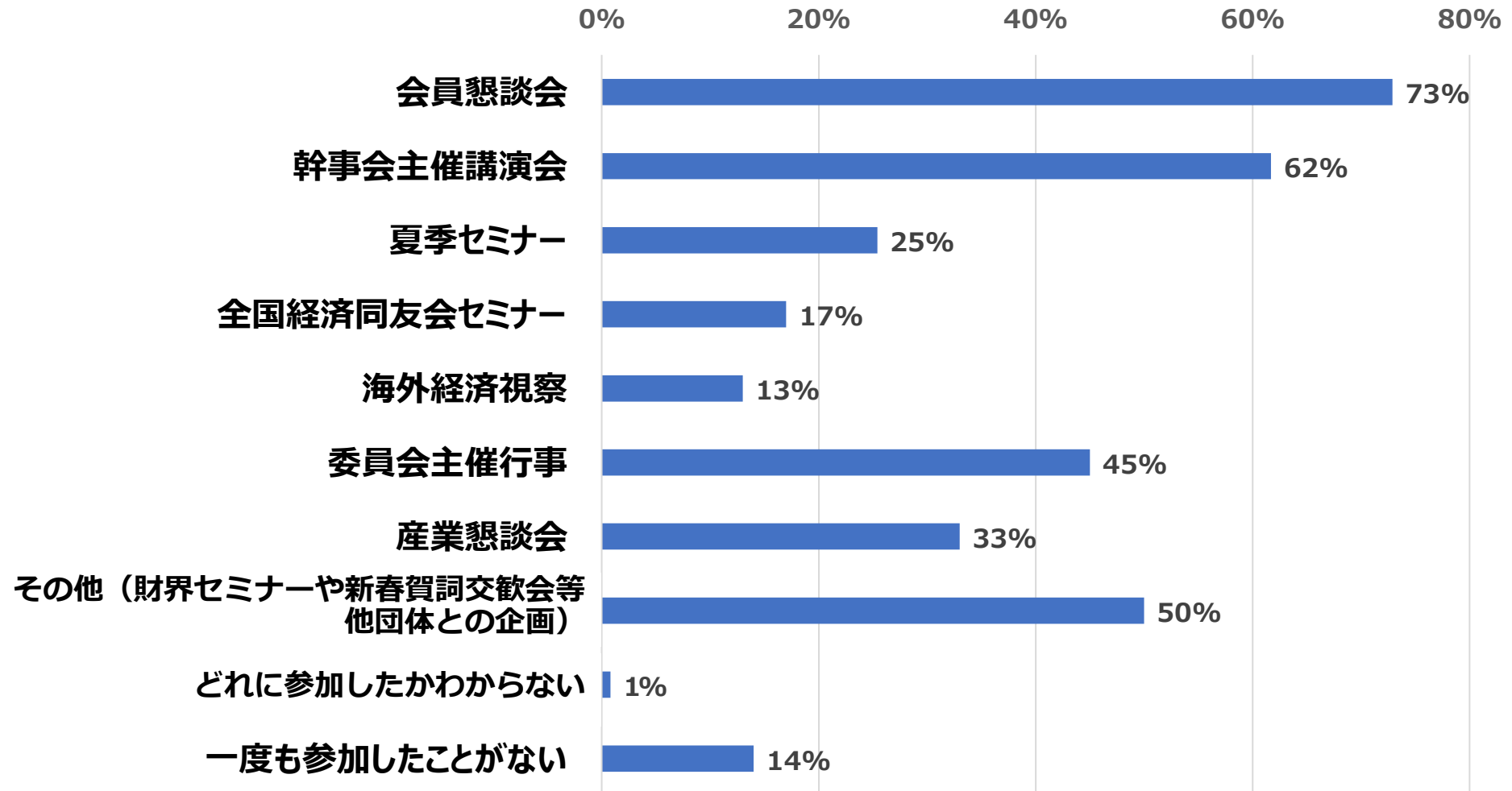


回答者属性 2

回答者数240名
(回答率23.5%)

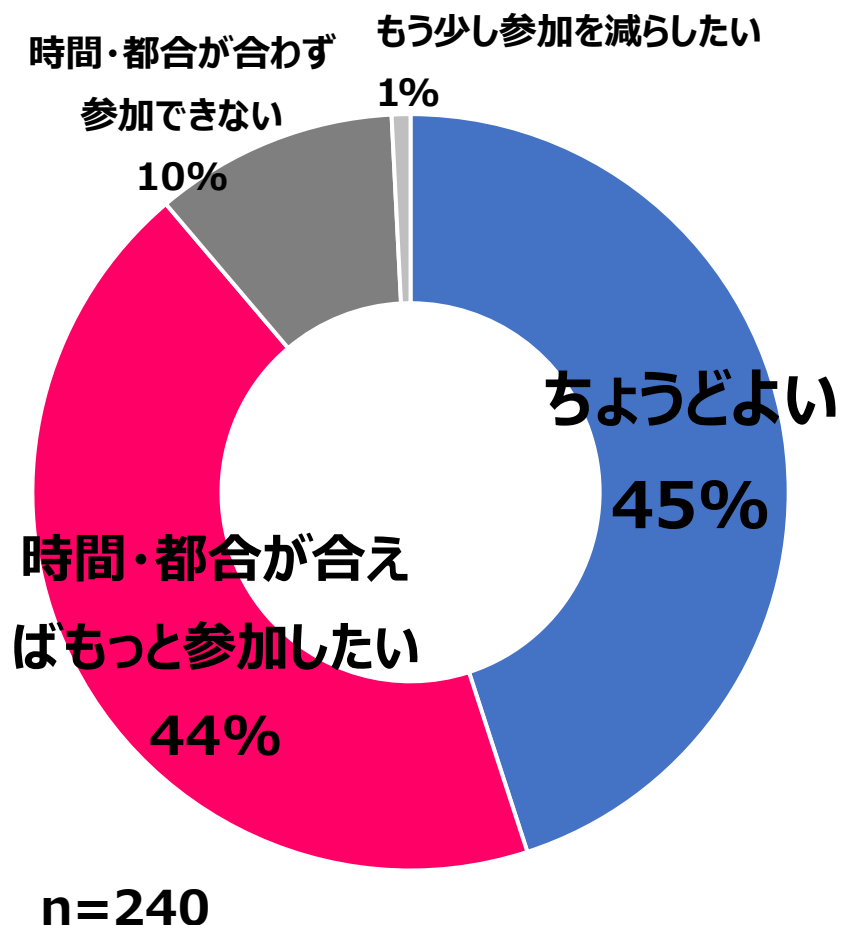


Q1-1. 本会活動のうち、参加したことのあるものをすべて お選びください。



n=240

Q1-2.現在のご自身の参加頻度について 当てはまるものをひとつお選びください。



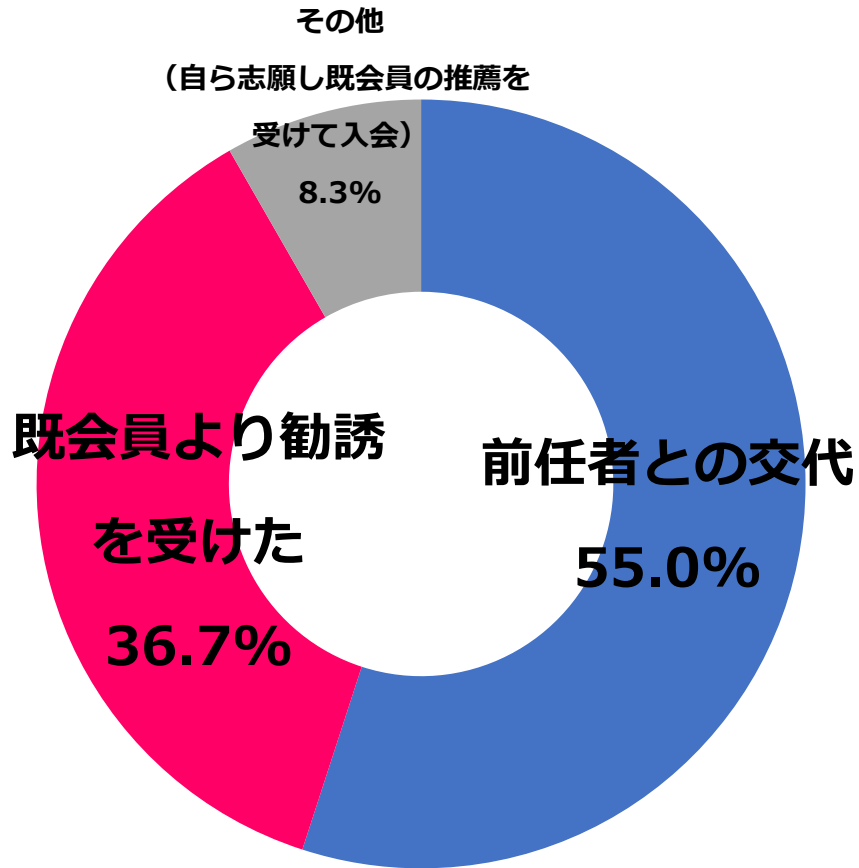
時間・都合が合わず参加できない 10%
参加を減らしたい 1%



参加しにくい要因

- ✓ 社業多忙 56%
- ✓ 物理的に距離が遠い 26%
- ✓ 昼間の時間帯に参加しにくい 22%
- ✓ 活動に魅力を感じない 4%

Q2-1.中部経済同友会に入会した経緯をお聞かせください。



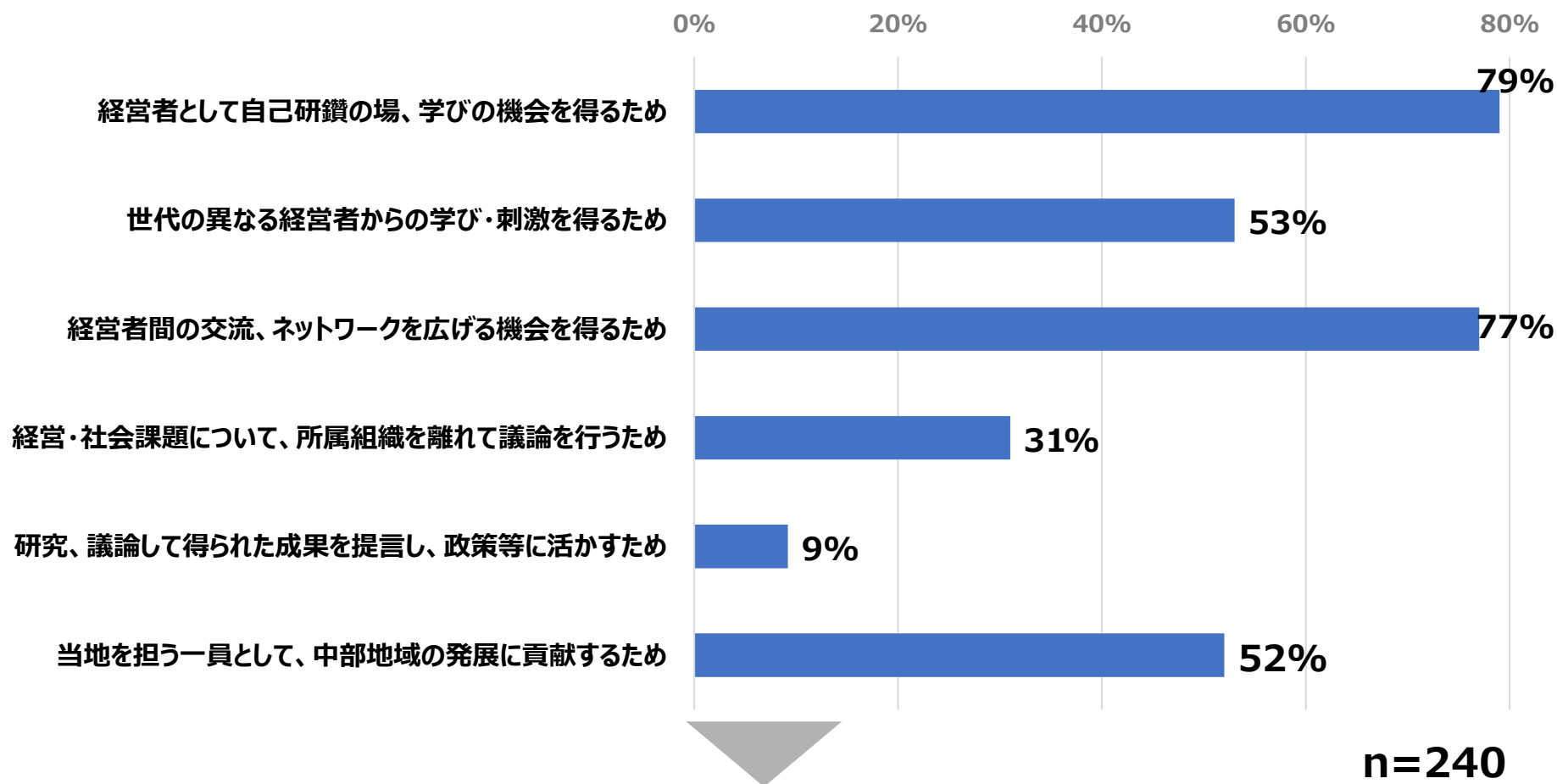
n=240

(参考) 本会会員の在籍年数

0～3年	46%
4～5年	13%
6～10年	16%
11～19年	14%
20年以上	11%

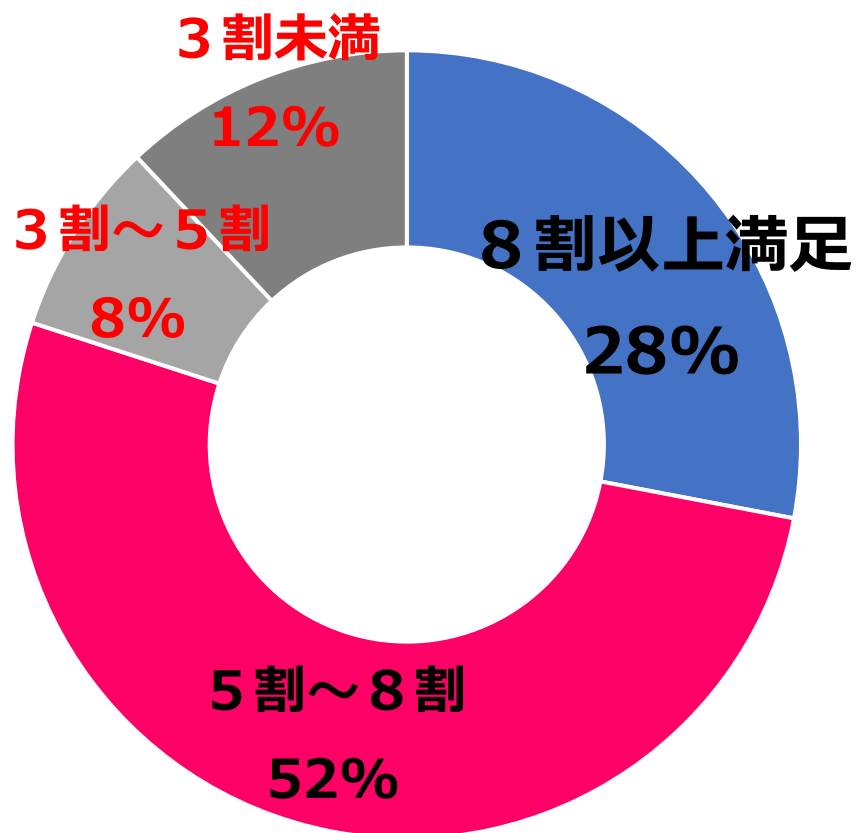
約半数が3年で入れ替わる

Q2- 2.中部経済同友会は3つの目的（研鑽・交流・発信）を掲げています。**本会活動に参加するご自身の目的を教えてください。（複数選択）**



研鑽・交流を目的とする会員が大多数
「地域貢献」を目的に掲げる声も半数を超えた

Q2-3.入会した成果はどの程度得られていると感じますか。



n=240

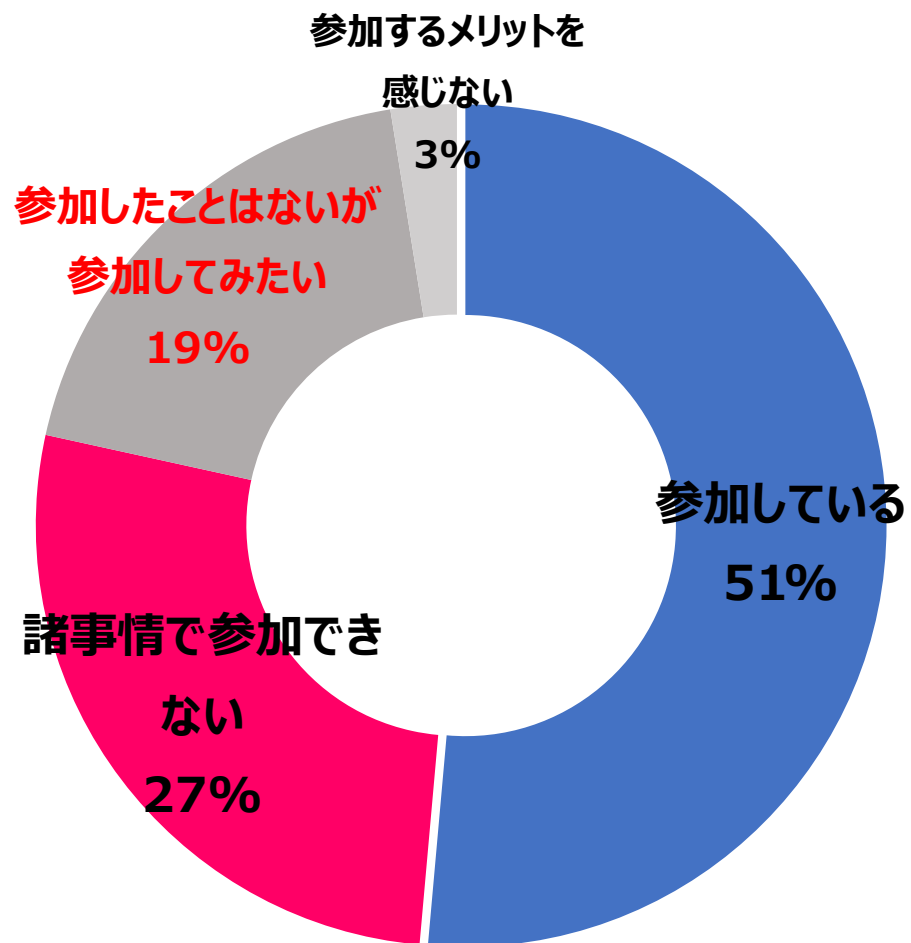
満足度 5 割以下の方 20%
(このうち半数以上が新入会員)



理由

- ✓ コロナ禍のためにリアルな会議に参加できない
- ✓ 距離が離れているため参加頻度が限られるため
- ✓ 時間の都合から参加回数が少ないため

Q3-1. 委員会活動についての参画状況をお聞かせください。



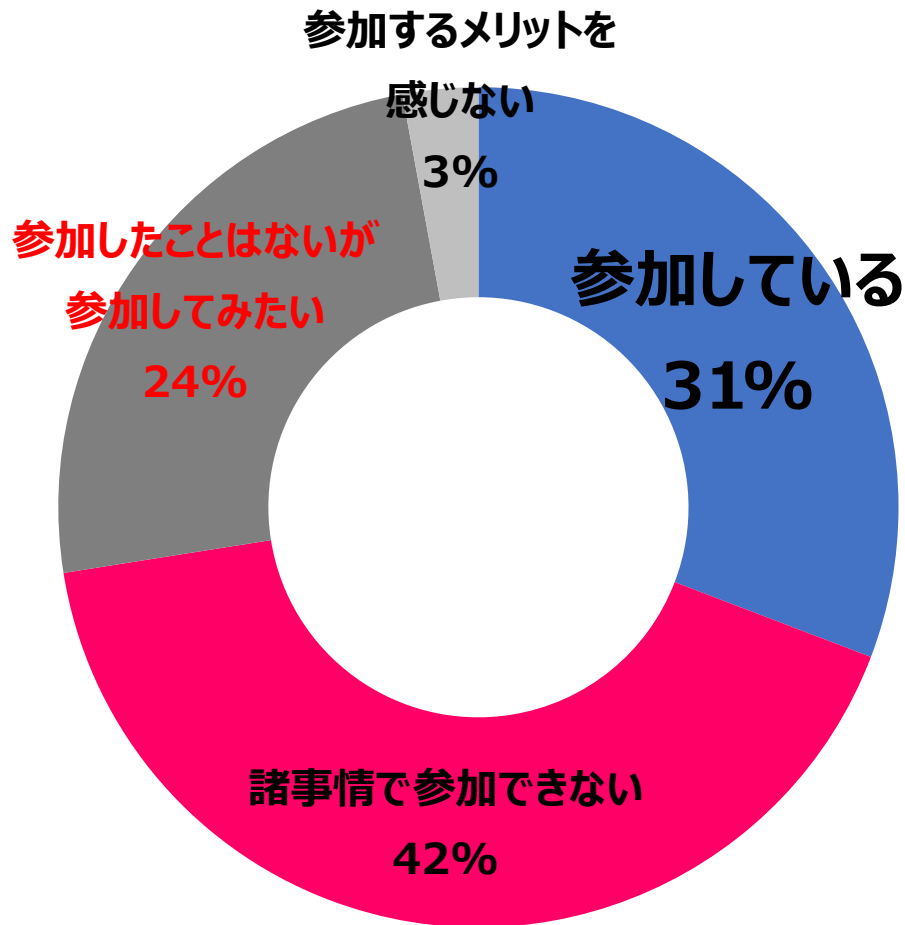
**参加したことはないが参加してみたい方
(19%) へのアプローチが課題**

**メリットを感じない方 (3%) の理由
(理由)**

- ✓ 他経済団体でも委員会に所属しており、参加が難しい
- ✓ 多忙なため時間を割けない

n=240

Q3-2. 産業懇談会についての参画状況をお聞かせください。



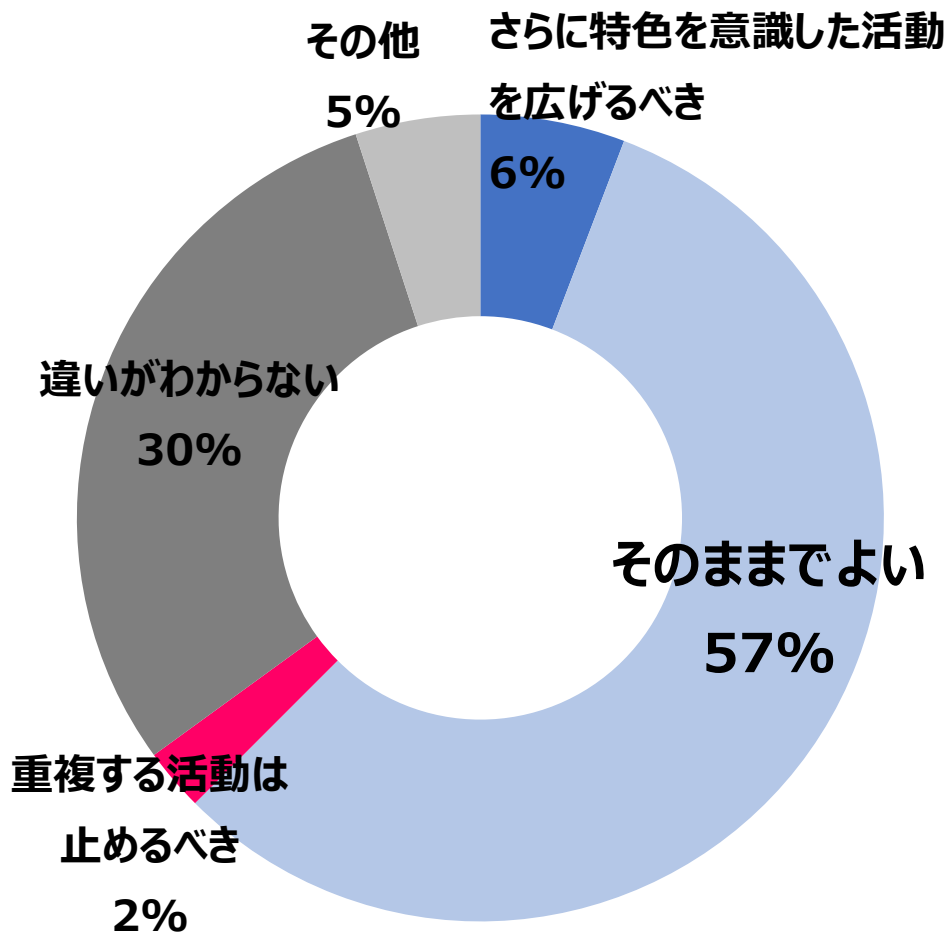
参加したことはないが参加してみたい方
(24%) へのアプローチが課題

メリットを感じない方 (3%) の理由
(理由)

- ✓ 異業種交流は他の手段でも可能
- ✓ 他で同様の会に参加している

n=240

Q4-1. 当地にある4つの経済団体（中部経済連合会、名古屋商工会議所、愛知県経営者協会、本会）の違いをどのように感じますか。



n=240

棲み分けができており、さらに特色を意識した活動を広げるべき 6.0%

- ✓ 会員の多様性を担保するために新会員発掘タスクフォースを事務局内や委員会に設けては。
- ✓ 同友会の特長は、個人としての意見が言える場であること。少人数でもかまわないので、リアルな意見交換の場を。

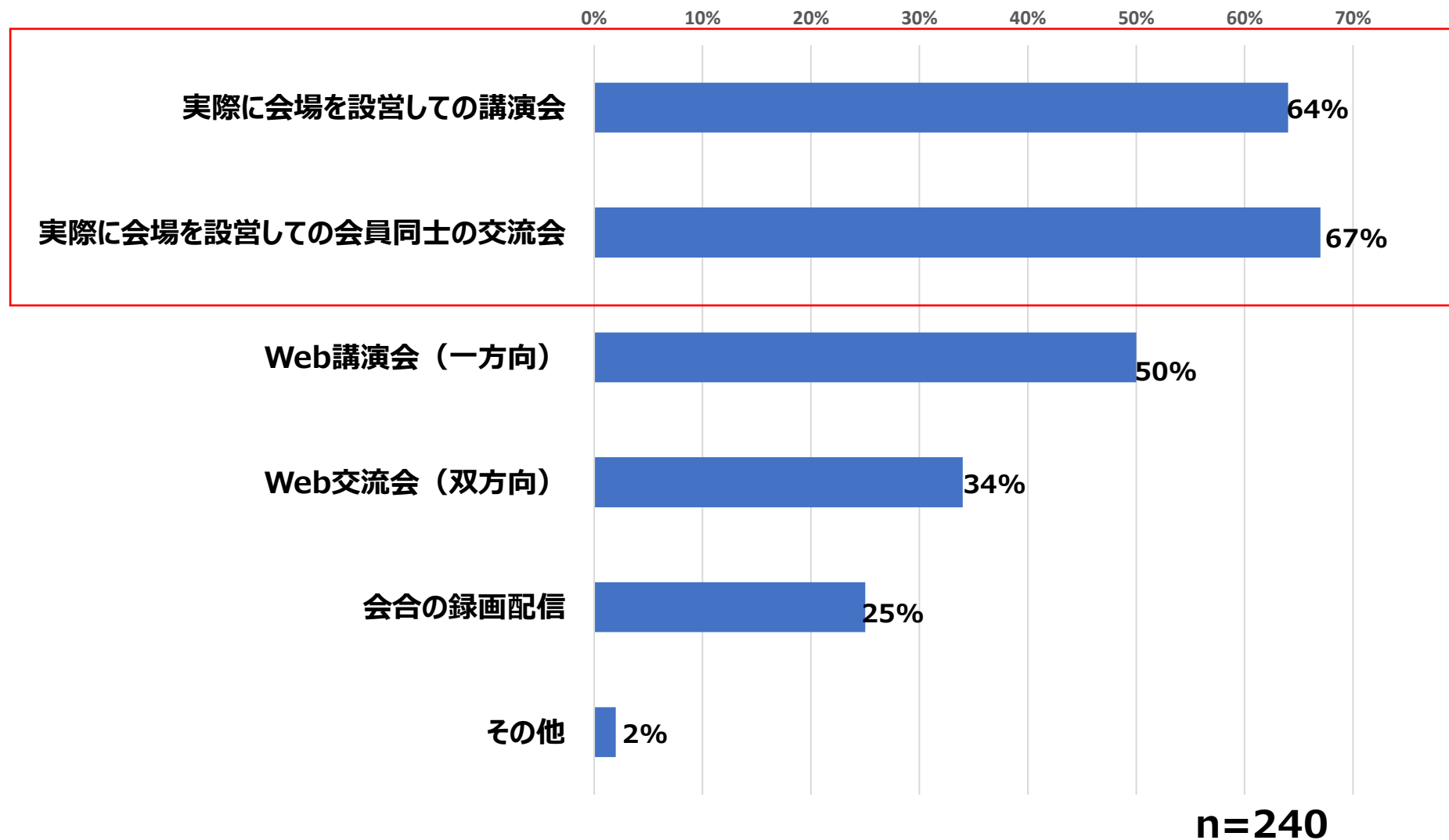
重複する活動は止めるべき 2.0%

- ✓ 研究テーマの重複の整理や共同提言への方向づけ。他団体と足並みを揃えた政策提言により、より広域なステージアップを期待

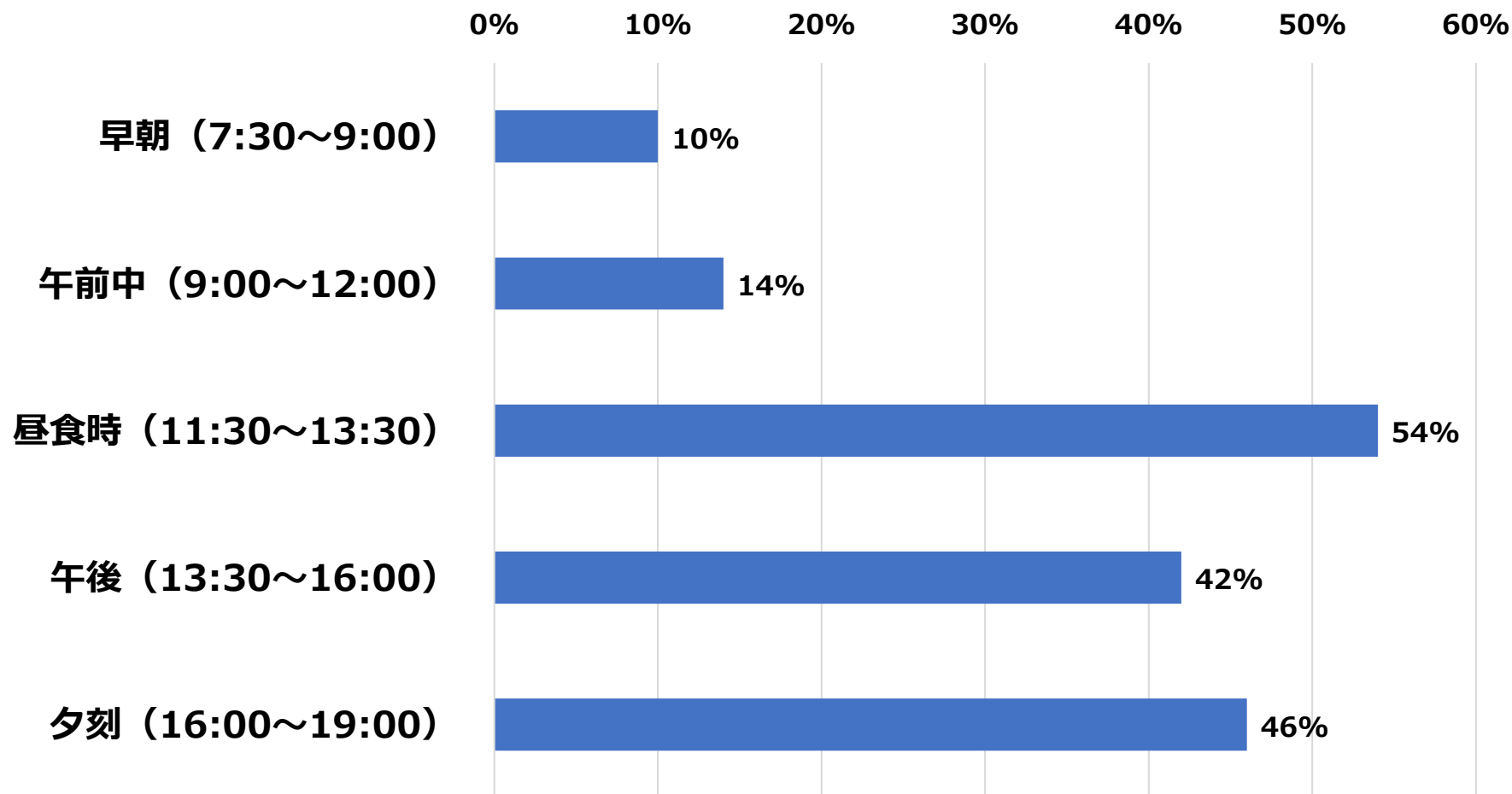
その他 5.0%

- ✓ 合併
- ✓ 実態把握できていない
- ✓ 経済団体という特殊な機能につき、差別化に躍起になる必要はない

Q5-1. 中部経済同友会の今後の会合形式について希望をお聞かせください。（複数選択）

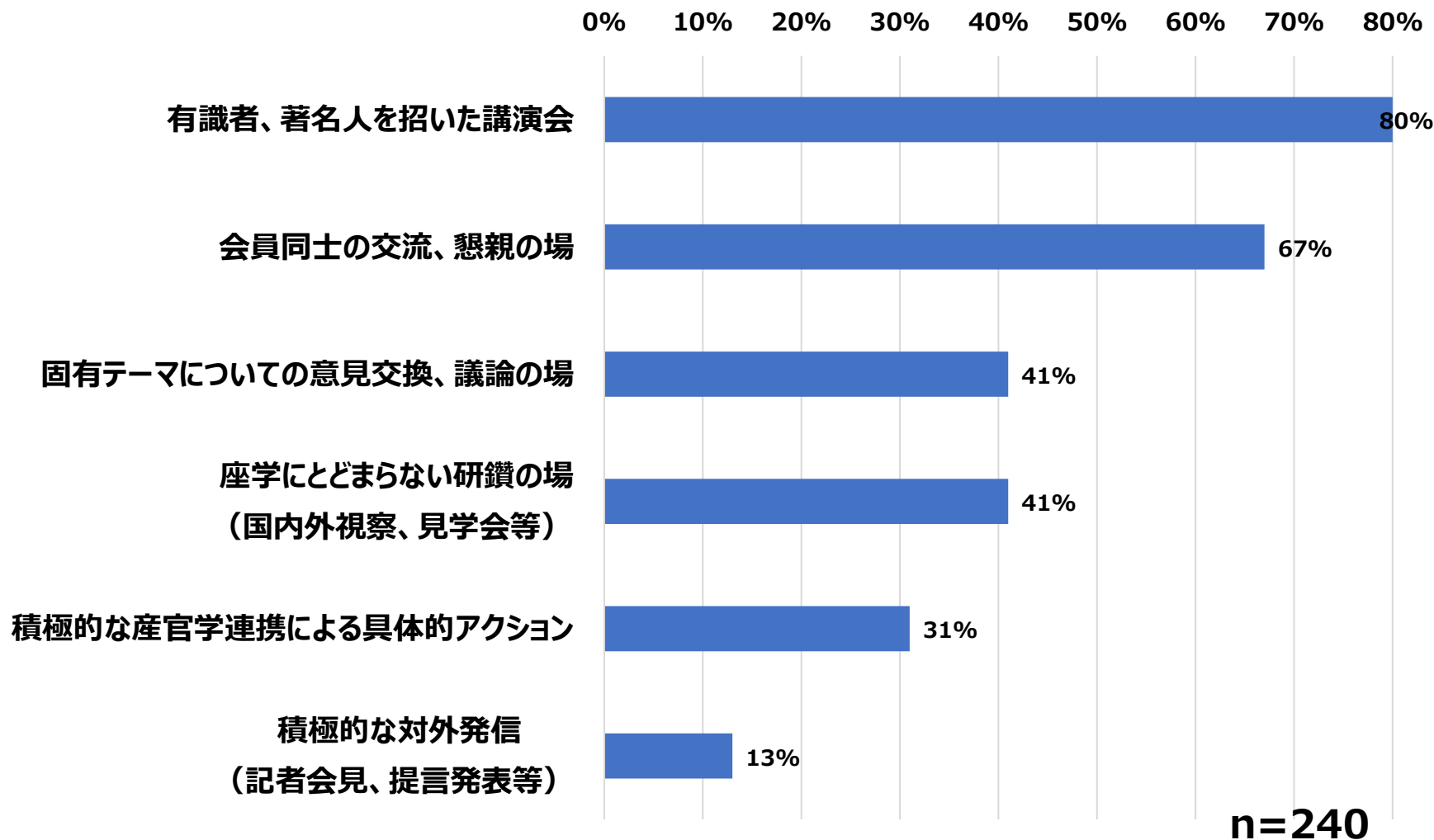


Q5-2. 会合開催時間への希望をお聞かせください。（複数選択）

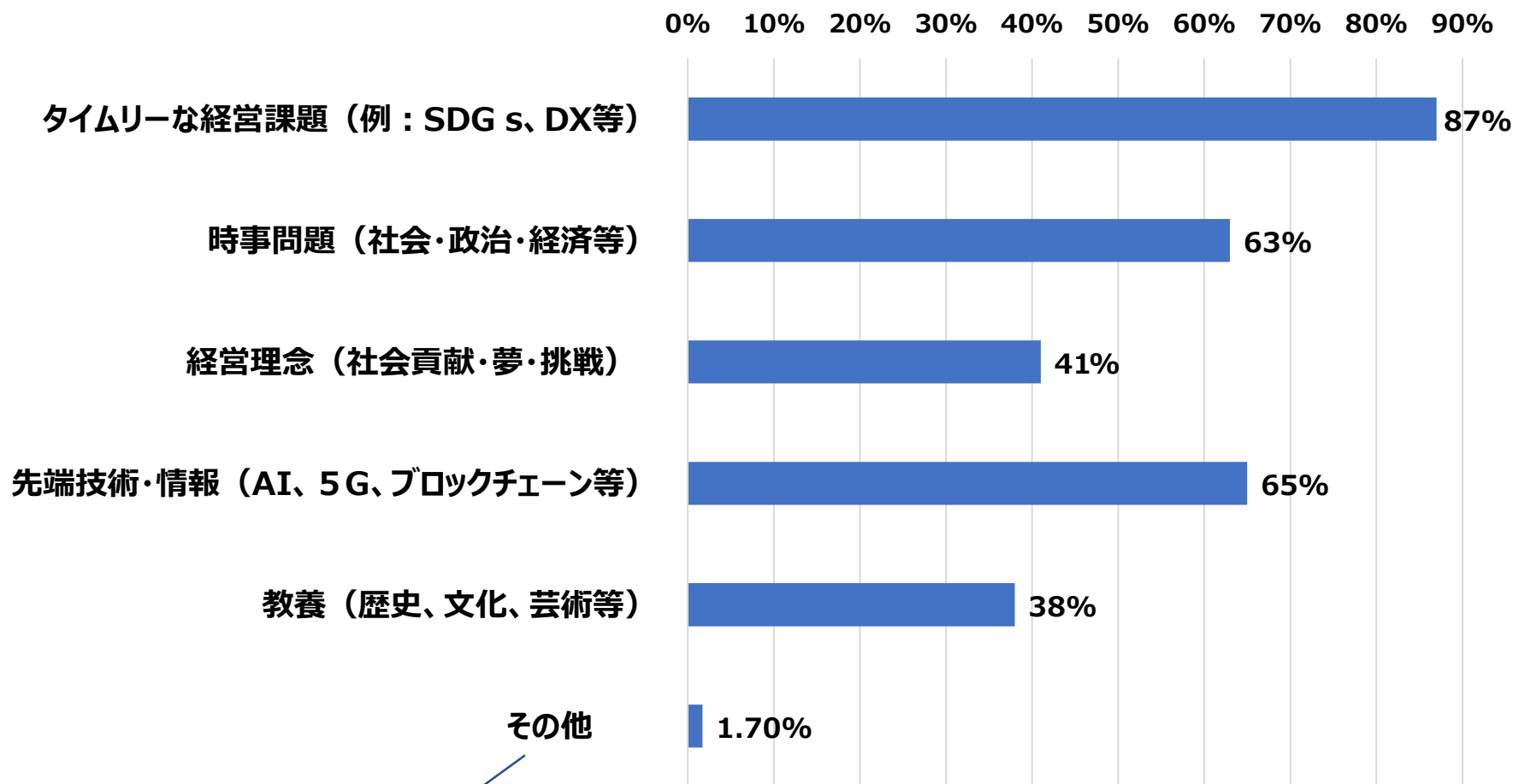


n=240

Q5-3.中部経済同友会の活動に対しての期待を以下から お選びください。（複数選択）



Q5-4.中部経済同友会が取り扱うテーマとしてご関心の高いものをお選びください。（複数選択）



n=240

地域経済や文化の発展に寄与できるもの
ドメスティックに終始せず、積極的に海外から見た日本、
中部の現状と課題を提起するような内容

Q5-5. 特に印象に残っている会合について

会員懇談会・幹事会主催講演会 など、定例の大規模講演会	・各分野の最前線で活躍されている方の講演会は大変有益 ・昼食時の会合は、講演を聞くことができるとともに会員交流も図れ、有意義な場
全国経済同友会セミナーなど 他地区経済同友会との交流	・全国セミナーで中部が企画する分科会 ・他地区の代表幹事や会員と懇親会で会話できた
国内外視察など現地現物の 見学会	・個人では会えない人、行けない所への視察は貴重な体験。同時に会員同士の交流を深めることができる ・海外視察での団員スピーチでは、先輩経営者であるべき姿の手本を見た ・企業訪問は当社無い、諸々の事が見聞き出来てどの訪問先も印象に残った
委員会主催行事	・働き方改革や生産性等、固有テーマでの委員会主催講演会はビジネスにも反映でき有益 ・「教育を考える委員会/出前教育」「文化の街づくり委員会/ステキ・小粋・まち歩きの会」「国際交流委員会/留学生との交流会」など、参画型の会合は座学と違い、深いコミュニケーションが図れる ・様々な業種の方と意見交換ができるという利を大変有意義に感じる ・委員会として議論し、提言をまとめていくプロセスは勉強になった
産業懇談会	・産業懇談会は会員同士のビジネス上の人脈活用等、幅広く活動範囲が認められており、多くの刺激が得られる ・毎年1月に実施している4グループ合同での筆頭代表幹事講話は、仕事に対する姿勢や人生訓に富んでいていつも感慨深い。
財界セミナーや新春経済講演会等、 他団体との企画	・大変盛況で東海地区の経済界のみなさんが集結している印象だった
その他	・2020年新型コロナ感染拡大の中、オンライン講演を開催した挑戦（新常態の在り方） ・新入会員交流会はアットホームな感じで、幹部の方々、先輩会員や新入会員同士の交流が深まった

Q5-6. 10年後、2030年はアフターコロナの新しい時代と想定されますが、その時の社会はどうなっているのか、また経営者はどうあるべきか、お考えをお聞かせください。

想定される社会（キーワード抜粋）

- ・ **二極化、格差拡大**（デジタル革新で成功する企業、淘汰される企業、個人も同様）
- ・ **組織、世界のフラット化**（業種、業界、世代、国境、あらゆる垣根がなくなる）
- ・ **分散型**（地方都市の価値が再評価。組織内においても分散が進む）
- ・ **個の確立**（組織の概念が崩れ、各個人が自立・距離を保ちながら存在する）
- ・ **共助・共感・共創**（自立した個があらためて支え合いつなげる新しい仕組み）
- ・ **サーキュラーエコノミー**（地球環境を最重要視し利益をだす循環型経済を確立）
- ・ **融合**（バーチャル×リアル、AI×人間の知、知の探索×知の深化）

経営者はどうあるべきか（キーワード抜粋）

- ・ **柔軟性、レジリエンスの発揮**（変化を受け入れ、しなやかに対応する姿勢）
- ・ 従来以上の**スピード感を持った意思決定、攻めの姿勢**
- ・ 自らが先端技術を学び、**変化しようとし続けること**
- ・ 足元、そして長期のトレンドを見失わない**客観的な判断力**
- ・ **経営者の役割は変化しない**。組織とそれを取り巻くステークホルダーとの最適解を、時代のニーズに合わせて追求する。リーダーシップと夢を持ち続けること。

Q5-7.全体を通してご意見をお願いします。(1/2)

- D Xを一気に進め、遅れた日本の中で、モデルとなるような地域にしていきたい。経済団体にリーダーシップをとっていただき、インクルージョンで多様性を取り入れ、プライドの持てる名古屋であり続けたい。
- コロナ禍でWeb主体の活動にならざるを得ないが、Webならではのメリットもある。アフターコロナのステージに移るまでは、この制約条件下でメリットを最大限に生かすことが大切であり、コロナ禍においては前例に囚われず臨機応変に対処することが肝要。
- 個人資格メンバーとなる同友会は、法人をベースとした経済連合会とは違い、時事問題・課題につき大胆で自由な提言を今後も発信し続けるべきである。
- 同友会の行事は広げるだけでなく、5年に1回程度は改廃し、質を高めることも重要。
- 時代によって変化の仕方は違えども、大局的に観ると人の歴史は繰り返すもの。過去の事例と現代で起こるであろう変化をよく対比しながら、間違いを繰り返さないためのあるべき論、普遍的な価値創造を議論できれば楽しそうですね。
- 今後の同友会の活動は 不要不急な会なのか？あらためて同友会について考える機会となりました。人と人とのつながり？
W E Bでは限界があるのか？ 5 Gが普及すればリアルを超える会が実現できるか？

Q5-7.全体を通してご意見をお願いします。（2/2）

- 新型コロナの恐ろしさは、生命への脅威もさることながら、今まで築き上げた人と人やグループとグループの「つながり」を分断する威力もあることだ。生命の安全が第一だが、「つながり」を失わない努力も忘れてはならない。「つながり」を維持・充実することも同友会の大きな役目だろう。感染対策を工夫しながら何とかリアルの会合を再開していただきたい。
- 中部経済同友会はすばらしい機会の場なので今後もいろいろと発信していきましょう！！
- 1000人を超える会員数は東京を除けば屈指の規模。実際は300～500人の実働規模ではなかろうか。組織形態として今後の展望をしっかりと定めた上で、現状の「任意団体」なのかそれとも法人格を成すか、一度議論されてもいいのではないか。
- 未来にこれまでの負の遺産を先送りするのではなく、今回のコロナ禍をむしろチャンスととらえ、未来に実を結ぶための「明日のタネ」を次の世代につなげることが大事ではないかと思います。
- まだ入会したばかりのひよっこなので、同友会を有効に利用し、自分磨きに使っていきたいと思っています。私のような世代の人間が、そういう事に積極的に取り組むことによって、中部の産業地位を確保し、将来にわたって日本を支え続けることができると思います。諸先輩型の偉大な遺産を無駄に浪費しないよう、しっかりと考えをもった経営をしていければと思います。
- 組織体制に縛られない中部経済同友会の行動力に期待します。

ご協力ありがとうございました！！

多数の貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

本アンケートは「中部経済同友会の未来を考える委員会」でさらに分析・検討を重ね、年度末の活動報告に活用するとともに、今後の本会活動に反映させていただきたいと存じます。

引き続きよろしくお願い申し上げます。



1000人の 
を届けよう